

群青

～いじめ問題を考える～

串木野高等学校図書館
令和5年5月22日発行

いじめ問題を考える週間（5月22日～5月26日）

いじめとは

「一定の人間関係のある他の児童生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものも含む。）であって、当該行為の対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じているもの。」と定義されています。

（『いじめ防止対策推進法』文部科学省）

いじめは、いつでも誰にでも起こり得る事で、生命をも脅かしかねない、許されない行為です。

加害者の気持ち

・いじめる理由付け

「あいつは〇〇だから」……いじめられても当然と思いつく。

・葛藤

良くないこととわかっている。……かわいそう。止められない。被害者になる。

被害者の気持ち

・自己否定

「自分は価値のない人間だ」……自尊感情がズタズタになる。

・孤立

いじめられていることを隠す。……恥をかきたくない。心配をかけたくない。いじめの悪化を恐れる。

やられている人が、「イヤだ」「つらい」「悲しい」「苦しい」と感じているならいじめです。



いじめの後遺症 PTSD (心的外傷後ストレス障害)

30歳前後の男女を対象にした調査では、学校でいじめの被害にあった経験がある人は、そうでない人に比べて、不安障害や PTSD に苦しんでいる人の割合が高いことが明らかにされています。

また、いじめに加わったことも後ろめたい気持ちを抱え、思い悩むようになり、心に傷を負います。

『友だちをいじめる子どもの心がわかる本』

原田 正文 監修